

農場運営

技 術 部

(1) クロッピングシステム部門

平成13年度の担当圃場面積は150.9a、作付面積は春作167.2a（露地148.3a、ビニールハウス12.3a、汎用温室6.6a）、秋作78.75a（露地66.0a、ビニールハウス6.15a、汎用温室6.6a）で総作付面積245.95a、作付率は163%であった。

土壌改良については、カボチャの間作エンバクの作付とエンバク・ヒマワリの緑肥の作付を取り入れた。また八浜農場の協力を得て籾殻の投与も継続して行った。

今年度から始まった夏期集中の作物集中実習でビニールハウス1棟（205㎡）の設置を行った。今後の活用が期待できる。

試験研究課題としては「カンショにおける本畑採苗法の開発」、「間作エンバクのカボチャ作への活用」を取り上げ、圃場試験を行った（結果は本報告に記載）。

新規導入作物としては、平成12年度に試作をしたヤマノイモ（品種ツクネイモ）、ニラ（品種グリーンベルト）、ラッカセイ（改良半立ち性）の栽培を行った。

第1表、第2表に2001年度クロッピングシステム部門作物別耕種概要を示した。

カンショは平成12年度に病害が発生したため、作付圃場を移動し、茨城県から取り寄せたベニアズマの購入苗を植え付けた。初期生育は順調であったが、窒素過多の影響で蔓が過繁茂の状態となり、さらに夏季の高温の影響でイモの内部に生理障害と思われる褐変症状が発生し、一部廃棄処分を行った。今後は、窒素肥料の施用量に留意したい。

エダマメは温室・ハウス・露地栽培を行い、従来通り主力作物である。温室とハウス栽培については、特に窒素肥料が過剰気味で、茎葉が過繁茂になり倒伏し、莢つきが悪かった。今後は施肥量に気をつけたい。露地栽培については、今年も収穫日予測回帰式による計画的作付を行い、予定時期に安定した生産量を上げた。

ラッカセイは、初期生育は順調であったが、収穫

時期の判定に苦慮し、作付面積の5分の1程度しか収穫できなかった。

カボチャ・ウリは今年度もエンバクを間作した。その結果、敷き藁用稲藁の節約と省力化の利点があった。今年度はエンバクの刈り倒し方法に工夫を加え、さらに実用化されたと思われる。

スイートコーンは前半のカクテル600の品質は良かったが、後半のキャンベラ90は適期栽培ではなかったため、品質は悪かった。スズメなどの鳥害、アワノメイガの幼虫による虫害などが品質の低下につながるので、今後回避法を考えたい。

カンランは、昨年に続き育苗が遅れ、秋作の大半が十分に結球しないうちに収穫となった。今後はこれまでの反省を活かし、適期の栽培を心がけたい。

カリフラワーは、今年度初めて春作に取り入れた。しかし十分成長しないうちに変色するなど高品質なものがつくれなかった。

ホウレンソウは、秋作の生育が悪く、葉が黄化して品質が低下した。圃場の水はけが悪かったためと考えられる。

サトイモは地上部の生育が悪く、収量に影響があるのではないかと懸念されたが、形も品質も良いイモができた。収穫は昨年同様早めることができ、高単価で販売ができた。今後は調整の省力化を図りたい。

シュンギクは温室で栽培し、発芽は不揃いであったが、品質は良好で3月下旬まで収穫を続けることができた。

ダイコン・カブはマルチ栽培による安定した生産量を上げてきた。春作では初めてハウスで栽培を行い前半は高品質であったが、後半はアブラムシの発生と収穫の遅れにより品質が下がった。秋作は前半にも生育初期の虫害が無く、高品質であった。

ニンジンでは省力化のため、播種機でコーティング種子を播種する無マルチの栽培法を多用した。除草に留意する必要があるが、播種の時間が短縮でき、しかも高品質であった。今後もコーティング種子を

有効活用したい。

バレイショは今年度も収量が低迷した。早期に栽培技術の改善を図りたい。

ハボタンは育苗中の生育が遅延し定植が遅れ、例年と比べて大きさが小さく、葉の枚数も少なかった。そのため販売単価が例年より落ち込み、収入は低迷した。今後は健全育苗と適期定植を心がけたい。

ネギは昨年の反省を活かし、学生実習時に1株当たりの苗数の周知徹底を行ったため、昨年のように細いネギにならなかった。今年も直接定植法を行った。

レタスは、今年度も秋作露地栽培で本畑育苗移植法を採用し、省力化を図った。春作は抽苔により多数廃棄になった。また、秋作でも露地栽培では冬季の低温により腐敗し、多数廃棄になった。今後は作付面積を調整すること、厳寒期にはハウスや温室を利用することに留意したい。

ニラは、ハウス2棟分、約3aを作付けた。再生

力が強いので収穫後1ヶ月で再収穫できるが、市場のものと比べると長さが短いので、今後も品種選択を含め検討を続けたい。

ヤマノイモは、通常支柱・無支柱・ライブ支柱（トウモロコシなどを支柱代わりに間作する方法）栽培を行った。またビニルマルチ栽培と無マルチ栽培も行い比較した。今年度は除草に失敗したため圃場に雑草が繁茂した。また土壌が硬く、石が多かったためイモの形が悪くなった。対応策は土壌がよい圃場を選ぶこと、堆肥や籾殻を大量に施用すること、早期に除草を行うこと等を考えている。

セロリは、ハウス・温室栽培とし、5月に播種、8・9月に定植し、11月終から3月まで収穫を行った。育苗・生育は順調で品質も良好であった。生育中にハダニが発生することが多いので防除に努めた。

（山奥隆・酒井富美子）

第1表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 コード	圃場	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
カンショ	90	西4	20.0	ベニアズマ	5037.0	2518.5	455	110	20
エダマメ	171	温室A	2.0	サッポロミドリ	101.0	505.0	794	60	21
エダマメ	167	ハウス1	0.5	サッポロミドリ	246.0	1230.0	794	60	21
エダマメ	167	ハウス1	1.0	宝石	*	*	794	60	21
エダマメ	167	ハウス3	0.5	宝石	1900.0	1104.7	794	60	21
エダマメ	91	西3	3.0	宝石	*	*	619	85	19
エダマメ	91	西3	3.0	宝石	*	*	619	85	19
エダマメ	91	西3	1.5	宝石	*	*	560	85	21
エダマメ	91	西3	1.5	宝石	*	*	560	85	21
エダマメ	91	南5	1.5	北海黒豆	*	*	794	60	21
エダマメ	91	西3	3.0	北海黒豆	*	*	560	85	21
エダマメ	91	西5	3.0	北海黒豆	*	*	560	85	21
エダマメ	91	西5	2.2	北海黒豆	*	*	735	85	16
カボチャ	179	南3	2.9	利休	217.9	751.4	11	380	250
カボチャ	179	南3	3.0	赤ずきん	303.9	1013.0	11	380	250
カボチャ	179	南3	2.9	えびす	256.9	885.9	11	380	250
カボチャ	179	南3	1.5	はやと	135.1	900.7	13	380	200
ウリ	234	南3	1.9	あさじ白瓜	208.0	1094.7	18	380	150
スイートコーン	222	西5	2.9	カクテル600	1277.0	1467.8	265	90	38
スイートコーン	222	西5	2.9	カクテル600	*	*	265	90	42
スイートコーン	222	西5	2.9	カクテル600	*	*	265	90	42
スイートコーン	222	西5	2.9	キャンペラ90	38.0	131.0	265	90	42
ラッカセイ	237	南3	2.4	改良半立性	10.0	41.7	556	60	30
春カンラン	95	西3	1.0	おきな	1026.6	1140.7	333	60	50
春カンラン	95	西3	1.0	初秋	*	*	333	60	50
春カンラン	95	西3	1.0	初秋	*	*	333	60	50
春カンラン	95	西3	0.5	初秋	*	*	333	60	50
カンラン	95	南3	0.8	南宝	*	*	333	60	50
カンラン	95	南3	0.3	おきな	*	*	333	60	50
カンラン	95	南3	0.3	初秋	*	*	333	60	50
カンラン	95	南3	0.6	うしお	*	*	333	60	50
カンラン	95	南3	1.2	うしお	*	*	333	60	50
カンラン	95	南3	2.4	湖月	*	*	333	60	50
春カリフラワー	106	西3	0.5	スノークラウン	195.7	621.3	333	60	50
春カリフラワー	106	西3	0.5	スノークラウン	*	*	333	60	50
春カリフラワー	106	西3	0.5	スノークラウン	*	*	333	60	50

第1表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 コード	圃場	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
カリフラワー	106	南3	1.1	スノークラウン	*	*	333	60	50
カリフラワー	106	南3	0.6	スノークラウン	*	*	333	60	50
春ブロッコリー	119	西3	1.0	ハイツ	361.8	952.1	333	60	50
春ブロッコリー	119	西3	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
春ブロッコリー	119	西3	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
ブロッコリー	119	南3	1.2	ハイツ	*	*	333	60	50
ブロッコリー	119	南3	0.6	ハイツ	*	*	333	60	50
ハボタン	103	西2	1.3	F1赤かもめ	670.0	1675.0	417	60	40
ハボタン	103	西2	1.3	F1白かもめ	*	*	417	60	40
ハボタン	103	西2	0.8	F1赤はと	*	*	417	60	40
ハボタン	103	西2	0.8	F1白はと	*	*	417	60	40
春ハウレンソウ	170	ハウス3	0.5	リード	67.2	1344.0	1111	60	15
春ハウレンソウ	105	南3	0.6	リード	1041.2	982.3	1111	60	15
春ハウレンソウ	105	南3	0.6	リード	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ	105	南3	0.6	リード	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ	105	南3	0.6	リード	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ	105	南3	0.6	おかめ	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ	105	南3	0.6	おかめ	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ	105	西5	1.0	リード	*	*	2222	30	15
ハウレンソウ	105	西5	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ	105	西5	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ	105	西5	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ	105	西5	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ	105	西3	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ	105	西3	1.0	リード	*	*	1111	60	15
春ネギ	174	温室A	0.5	フレッシュ小ねぎ	24.7	494.0	2222	30	15
春ネギ	233	ハウス4	1.5	九条ねぎ	5.2	34.6	2222	30	15
ネギ	117	西2	10.0	九条ねぎ	1414.5	1414.5	444	90	25
春レタス	218	西2	0.5	レッドウエーブ	363.5	807.8	556	60	30
春レタス	218	西2	0.5	レッドウエーブ	*	*	556	60	30
春レタス	218	西2	0.5	レッドウエーブ	*	*	556	60	30
春レタス	218	南5	0.5	レッドウエーブ	*	*	556	60	30
春レタス	218	南5	0.5	レッドウエーブ	*	*	556	60	30
春レタス	214	西2	0.5	シスコ	343.7	859.3	556	60	30
春レタス	214	西2	0.5	シスコ	*	*	556	60	30
春レタス	214	南5	1.0	シスコ	*	*	556	60	30

第1表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 コード	圃場	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
レタス	218	西3	1.0	レッドウエーブ	*	*	556	60	30
レタス	218	西3	1.0	レッドウエーブ	*	*	556	60	30
レタス	214	西3	1.0	シスコ	*	*	556	60	30
レタス	214	西3	1.0	シスコ	*	*	556	60	30
レタス	217	ハウス4	1.5	レッドウエーブ	259.8	1732.0	556	60	30
ニラ	242	ハウス2	1.5	グリーンベルト	374.1	1247.0	833	60	20
ニラ	242	ハウス1	1.5	グリーンベルト	*	*	833	60	20
セロリ	212	ハウス3	1.5	トップセラー	157.9	1052.7	417	60	40
セロリ	118	温室C	2.0	コーネル619	533.1	1777.0	417	60	40
セロリ	118	温室A	1.0	コーネル619	*	*	417	60	40
パクチョイ	165	西2	1.0	-	117.2	468.8	833	60	20
パクチョイ	165	西2	1.0	-	*	*	833	60	20
パクチョイ	165	西5	0.5	-	*	*	833	60	20
シュンギク	173	温室A	0.5	大葉新菊	212.2	1414.7	1111	60	15
シュンギク	173	温室A	0.5	大葉新菊	*	*	1111	60	15
シュンギク	173	温室A	0.5	大葉新菊	*	*	1111	60	15
ミズナ	109	西2	1.0	千筋	437.3	2186.5	833	60	20
ミズナ	109	西2	1.0	千筋	*	*	833	60	20
サトイモ	122	西1	10.0	ずいき	1146.6	1146.6	128	120	65
サトイモ	122	西1	0.0	石川早生	*	*	128	120	65
ヤマノイモ	236	西1	3.0	つくねいも	22.0	55.0	278	120	30
ヤマノイモ	236	西5	1.0	つくねいも	*	*	278	120	30
春カブ	235	ハウス3	0.5	耐病ひかり	128.0	1280.0	1111	60	15
春カブ	235	ハウス3	0.5	耐病ひかり	*	*	1111	60	15
カブ	94	西5	0.5	耐病ひかり	813.7	2712.3	833	60	20
カブ	94	西5	0.5	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ	94	西5	1.0	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ	94	西5	1.0	耐病ひかり	*	*	833	60	20
春ダイコン	93	西2	1.0	おはる	3156.9	3946.1	833	60	20
春ダイコン	93	西2	1.0	おはる	*	*	833	60	20
春ダイコン	93	西2	1.0	おはる	*	*	833	60	20

第1表 クロップिंगシステム部門2001年度作物別耕種概要(A)

作目	作目 コード	圃場	面積 a	品種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
ダイコン	93	西5	1.0	耐病総太り	*	*	556	60	30
ダイコン	93	西5	1.0	耐病総太り	*	*	556	60	30
ダイコン	93	西5	1.0	耐病総太り	*	*	667	60	25
ダイコン	93	西5	1.0	耐病総太り	*	*	667	60	25
ダイコン	93	西5	1.0	耐病宮重	*	*	833	60	20
春ニンジン	120	西2	1.0	向陽2号	1484.0	1855.0	2222	30	15
春ニンジン	120	西2	0.5	イナリ五寸	*	*	2222	30	15
春ニンジン	120	西2	0.5	イナリ五寸	*	*	2222	30	15
春ニンジン	120	西2	1.0	向陽2号	*	*	2222	30	15
ニンジン	120	西3	2.0	向陽2号	*	*	2222	30	15
ニンジン	120	西3	1.0	本紅金時	*	*	2222	30	15
ニンジン	120	西3	1.0	陽明五寸	*	*	2222	30	15
ニンジン	120	西3	1.0	陽明五寸	*	*	2222	30	15
春バレイショ	186	西2	4.5	男爵いも	625.0	1388.9	400	100	25
春バレイショ	183	西2	4.5	メイクイーン	473.0	1051.1	400	100	25
春バレイショ	184	西2	1.6	デジマ	165.0	1031.3	400	100	25
春バレイショ	182	西2	1.2	レッドアンデス	91.0	758.3	400	100	25
秋バレイショ	184	南5	8.0	デジマ	9.0	11.3	385	100	26
秋バレイショ	182	南5	1.0	レッドアンデス	0.0	0.0	385	100	26
エンバク	-	南3	6.4	極早生スプリンター	*	*	*バラ播き		
エンバク	-	南5	5.0	ネグサレタイジ	*	*	* 30条播		
エンバク	-	西5	3.5	ネグサレタイジ	*	*	* 30条播		
ヒマワリ	-	南3	3.5		*	*	*	*	*
マビキナ (ニンジン)	216	—	*	—	93.0	*	*	*	*
マビキナ (ダイコン)	188	—	*	—	136.6	*	*	*	*
マビキナ (カブ)	187	—	*	耐病ひかり	70.4	*	*	*	*

第2表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要 (B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
カンショ		05.15	10.02	11.13	21.3	18.0	29.1	21.3	18.0	29.1
エダマメ	03.15	—	06.11	06.15	10.1	21.8	20.9	10.1	21.8	20.9
エダマメ	03.28	—	06.19	06.22	10.1	20.8	20.9	10.1	20.8	20.9
エダマメ	03.28	—	06.22	06.28	10.1	20.8	20.9	10.1	20.8	20.9
エダマメ	05.08	—	07.27	07.27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エダマメ	04.04	—	06.29	07.12	11.2	22.0	22.6	11.2	22.0	22.6
エダマメ	04.19	—	07.13	07.25	10.6	20.6	22.4	10.6	20.6	22.4
エダマメ	05.07	—	07.26	08.01	6.7	13.8	16.0	6.7	13.8	16.0
エダマメ	05.18	—	08.06	08.08	10.6	22.0	26.5	10.6	22.0	26.5
エダマメ	05.21	—	08.09	08.17	9.3	21.0	29.2	9.3	21.0	29.2
エダマメ	05.30	—	08.20	08.24	10.6	20.6	22.4	10.6	20.6	22.4
エダマメ	06.11	—	08.29	09.12	10.6	20.6	22.4	10.6	20.6	22.4
エダマメ	06.27	—	09.17	09.20	11.3	21.5	23.3	11.3	21.5	23.3
カボチャ	03.28	—	07.02	08.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カボチャ	03.28	—	07.02	08.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カボチャ	03.28	—	07.02	08.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カボチャ	03.28	—	07.02	08.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ウリ	04.16	—	06.21	08.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
スイートコーン	04.04	—	06.29	07.09	28.5	25.1	24.0	22.1	18.7	17.6
スイートコーン	04.23	—	07.10	07.16	25.6	22.3	21.3	21.3	18.0	17.0
スイートコーン	05.14	—	07.19	07.26	28.2	24.9	23.9	21.3	18.0	17.0
スイートコーン	05.28	—	08.06	08.07	29.8	26.5	25.5	21.3	18.0	17.0
ラッカセイ	05.15	—	11.12	11.19	13.3	17.3	13.0	13.3	17.3	13.0
春カンラン	03.01	04.12	06.14	07.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カンラン	03.15	04.20	06.14	07.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カンラン	03.15	04.24	06.15	07.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カンラン	04.05	05.02	06.22	07.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン	07.17	09.04	11.22	12.25	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
カンラン	07.17	09.04	11.26	01.24	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
カンラン	07.17	09.04	11.22	01.10	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
カンラン	07.26	09.04	01.07	02.05	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
カンラン	08.06	09.21	01.10	02.25	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
カンラン	07.26	09.21	01.21	02.25	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
春カリフラワー	03.01	04.12	06.01	06.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カリフラワー	03.15	04.20	06.05	06.20	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カリフラワー	03.15	05.08	06.20	06.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要 (B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
カリフラワー	07.26	09.04	11.22	12.25	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー	08.06	09.21	01.07	01.28	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー	03.01	04.12	06.04	06.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー	03.15	04.20	06.08	07.02	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー	04.05	05.02	06.19	07.02	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー	07.26	09.04	11.22	01.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー	08.06	10.10	01.28	03.01	22.5	18.9	17.9	21.3	18.0	17.0
ハボタン	08.06	10.09	11.30	12.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン	08.06	10.09	11.30	12.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン	08.06	10.09	11.30	12.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン	08.06	10.09	11.30	12.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	03.19	—	04.26	05.02	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	03.28	—	05.07	05.10	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	04.03	—	05.17	05.23	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	04.12	—	05.21	05.23	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	04.20	—	05.24	05.25	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	05.01	—	06.01	06.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ	05.17	—	06.18	06.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	08.30	—	10.02	10.10	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	09.04	—	10.11	10.24	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	09.18	—	10.29	12.07	23.3	19.2	18.2	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	09.26	—	12.07	12.18	23.3	19.2	18.2	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	10.02	—	12.19	01.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	10.12	—	12.20	01.23	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ	10.15	—	12.27	01.24	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ネギ	04.05	—	05.28	07.17	18.1	14.8	13.8	18.1	14.8	13.8
春ネギ	04.13	—	07.02	07.02	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ネギ	04.13	07.02	10.18	03.08	41.2	35.5	34.5	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.01	04.12	05.15	05.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.01	04.18	05.29	06.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.22	04.20	06.01	06.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.22	04.24	06.08	06.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	04.05	05.02	06.11	06.13	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.01	04.12	05.25	06.11	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.01	04.18	05.29	06.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス	03.22	04.24	06.12	06.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要 (B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
レタス	08.30	09.27	10.17	11.22	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス	09.11	10.16	11.22	01.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス	08.30	09.27	10.29	12.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス	09.11	10.11	12.17	12.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス	09.27	10.30	01.09	03.18	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニラ	03.22	08.21	09.12	01.07	26.4	22.7	21.7	21.3	18.0	17.0
ニラ	03.22	08.20	10.05	01.21	28.2	23.2	21.7	24.0	19.0	17.5
セロリ	05.22	08.22	10.18	11.30	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
セロリ	06.06	09.03	12.03	02.15	26.6	20.0	18.0	26.6	20.0	18.0
セロリ	06.06	09.12	02.15	03.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
パクチョイ	09.11	10.09	10.18	12.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
パクチョイ	09.25	10.16	11.02	12.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
パクチョイ	09.25	10.17	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
シュンギク	09.12	—	10.29	03.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
シュンギク	09.28	—	11.06	03.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
シュンギク	10.05	—	11.14	03.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ミズナ	09.17	10.09	10.25	02.04	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ミズナ	09.25	10.16	12.05	02.15	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
サトイモ	04.11	—	11.14	12.03	28.0	24.7	23.7	21.3	18.0	17.0
サトイモ	04.11	—	11.26	11.26	28.0	24.7	23.7	21.3	18.0	17.0
ヤマノイモ	04.10	—	11.21	11.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ヤマノイモ	04.16	—	11.19	11.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カブ	03.19	—	04.25	05.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カブ	03.28	—	05.24	06.25	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ	08.31	—	10.09	10.22	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ	09.04	—	10.22	10.25	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ	09.19	—	10.29	11.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ	10.02	—	12.03	01.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン	04.02	—	05.24	06.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン	04.10	—	06.25	07.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン	04.18	—	06.25	07.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2001年度作物別耕種概要 (B)

作目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
ダイコン	08.31	—	10.17	11.20	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン	09.11	—	11.02	11.20	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン	09.25	—	11.26	01.22	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン	10.04	—	01.22	03.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン	09.20	—	11.26	01.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ニンジン	03.21	—	06.05	06.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ニンジン	03.30	—	06.28	06.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ニンジン	04.03	—	06.28	06.28	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ニンジン	04.06	—	07.06	07.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニンジン	08.24	—	10.30	12.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニンジン	08.27	—	12.03	02.01	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニンジン	09.05	—	01.09	03.27	27.7	24.4	23.4	21.3	18.0	17.0
ニンジン	09.12	—	01.28	03.27	27.7	24.4	23.4	21.3	18.0	17.0
春バレイショ	03.14	—	06.05	06.12	19.7	16.6	15.7	19.7	16.6	15.7
春バレイショ	03.14	—	06.11	06.12	19.7	16.6	15.7	19.7	16.6	15.7
春バレイショ	03.14	—	06.11	06.12	19.7	16.6	15.7	19.7	16.6	15.7
春バレイショ	03.14	—	06.11	06.12	19.7	16.6	15.7	19.7	16.6	15.7
バレイショ	09.05	—	11.27	11.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
バレイショ	09.05	—	11.27	11.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
エンバク	03.21	—	—	—	9.3	9.3	9.3	9.3	9.3	9.3
エンバク	04.23	—	—	—	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
エンバク	05.07	—	—	—	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1
ヒマワリ	06.08	—	—	—	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
マビキナ (ニンジン)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マビキナ (ダイコン)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マビキナ (カブ)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 汎用耕地部門

今年度は、生育期間中の天候に恵まれた年で移植栽培は岡山水田、八浜水田共に苗の生育が順調に進み、田植えも平年並みに行え、苗の活着も順調であった。乾田直播栽培はヒノヒカリの発芽が遅れた(ヒノヒカリは直播栽培においても発芽がアケボノに比べいちじるしく悪い)が初期生育は順調であった。その後の天候も高温、多照で経過したため、生育は順調に促進された。出穂時期もヒノヒカリ、アケボノ共に昨年並みであった。台風の襲来もなく倒伏等の被害も少なかったことに加えて、高温、多照が出穂後も続いたことにより、登熟はおおむね順調に推移した。穂の一部に県中北部にみられる稲コウジ病がみられたが、それほど収量に影響はなかったと思われる。収穫量は晩生のアケボノが中生のヒノヒカリを上まわった。水稻の作柄は全国平均がやや良の「104」、岡山県南部の作況指数はやや良の「102」であった。岡山水田は栽培品種をアケボノに統一し、田植え機を用いて成苗(葉齢5～5.5)を

1号、2号水田に移植栽培した。また、3号水田では、修士・卒業論文作成のための試験が行われ、多くの研究成果が報告された。八浜水田は1号～5号水田を乾田直播栽培、6号水田に成苗(葉齢5～5.5)を用いた移植栽培とし、中生品種のヒノヒカリ、晩生品種のアケボノを栽培し作業の分散をはかった。また、昨年と同じくかき殻の多い圃場は秋落ちしやすい傾向がみられたので水田の一部に追肥を行った。

本農場の水稻収量は岡山水田545kg/10a、八浜水田アケボノ580kg/10a、ヒノヒカリ480kg/10a、平均552kg/10aとなり、昨年(498kg/10a)より多収となった。また、牧草のヘイ・スーダンは天候に恵まれ生育が良く、1回刈り目は2400kg/10a、2回刈り目には2200kg/10a、3回刈り目1500kg/10aとなり、合計6100kg/10a(生草)となった。また、本年度は試験的にヒノヒカリ1000kgを学内販売した。

(多田正人)

第1表 栽培面積

作目	栽培様式	品種	栽培圃場及び面積(a)			合計(a)
岡山水田						
水稻	移植	アケボノ	1号(40)			40
	移植	アケボノ	2号(64)			64
	試験研究用		3号(5、研究室・未収穫)			－
八浜水田						
水稻	直播	アケボノ	1号(211)	2号(158)	3号(69)	438
	直播	ヒノヒカリ	4号(81)	5号(134)		215
	移植	アケボノ	6号(54)			54
牧草		ハイ・スーダン	1号(70)			70

第2表 栽培の概要

作目	栽培様式	品種	播種・移植期	播種量 kg/10a	種類	施肥量 (kg/10a)			収穫期
						N	P ₂ O	K ₂ O	
岡山水田									
水稻	移植	アケボノ	5/8・6/13～14	1.4	L P	8.6	8.6	8.6	10/24～10/25
八浜水田									
水稻	直播	アケボノ	5/7～5/14	6.0	L P	8.5-11.8	8.5	8.5	10/26～11/ 5
	直播	ヒノヒカリ	5/15～5/18	7.0	L P	8.5-14.5	8.5	8.5	10/12～10/19
	移植	アケボノ	5/15・6/20	1.4	L P	8.4	8.8	8.8	11/8
牧草	直播	ハイ・スーダン	4/19	7.0	化成	14.1	6.2	6.2	7/2～12/19

第3表 水 稲 防 除 作 業 内 容

	薬剤名	圃場名（号田）	使用量（/10a）	月／日	
八浜水田	除草剤	サターン乳剤	1,2,3,4,5	900ml	5/18～5/29
		スタム乳剤	1,2,3,4,5	670ml	5/18～5/29
		スタム乳剤	1,2,3,4,5	520ml	6/12
		クサノック粒剤	1,2,3,4,5	3.1kg	6/18～6/22
		ダイハート粒剤	6	70cc	6/21
		クリンチャー乳剤	1,2	94cc	6/12
	殺虫・殺菌剤	ダイシストン粒剤	1,2,3,4,5	4.8kg	5/21～5/30
		EPN乳剤	1,2,3,4,5,6	91cc	7/27～7/30
		バリタシン水和剤	1,2,3,4,5,6	91g	7/27～7/30
		アフロート水和剤	1,2,3,4,5,6	91g	7/27～7/30
		ヒノサン乳剤	1,2,3,4,5,6	99cc	8/22～8/27
		EPN乳剤	1,2,3,4,5,6	99cc	8/22～8/27
		バリタシン水和剤	1,2,3,4,5,6	99g	8/22～8/27
		トレボン乳剤	1,2,3,4,5,6	99g	8/22～8/27
岡山水田	除草剤	シンサン粒剤	1,2	68cc	6/15
	殺虫・殺菌剤	EPN乳剤	1,2	95cc	7/26
		バリタシン水和剤	1,2	95g	7/26
		アフロート水和剤	1,2	95g	7/26
		EPN乳剤	1,2,3	95cc	8/23
		バリタシン水和剤	1,2,3	95g	8/23
		トレボン乳剤	1,2,3	95g	8/23
		ヒノサン乳剤	1,2,3	95cc	8/23

(3) 装置化生産部門

i. 果 樹 部

本年度、果樹部が栽培を担当した圃場面積は、岡山農場163.4a（露地圃場103.6a，ビニールハウス52.5a，ガラス温室7.3a）と本島農場49a（すべて露地圃場）で、前年度と同様であった。本年度も果樹園の改植を進め、3号園にブドウ‘安芸クイーン’を新植したほか、樹冠面積の拡大に伴って各園で間伐を実施した。

前年度末に松田技官が定年退官した後、果樹部は2ヶ月間1名欠員となったが、6月1日付で帯広畜産大学より永田技官が着任した。本島農場の石川技能補佐員が病気のため5月より欠勤となり、その後退職し、代わって10月1日付で原田技能補佐員が採用された。緑道公園・半田山自然教育林関係の業務が以前よりも多忙となったため、この業務を併任している岡山農場の非常勤職員が果樹部の作業に携われる時間は減少した。このため、果樹部の4.5名全員が果樹の作業に携われる期間は短く、また、繁忙期の他部門からの協力も多忙のため減少し、労力不足の傾向はいちだんと強まった。特に、作業の集中する4～7月と1～3月には労力が極端に不足し、大幅に作業が遅れ、超過勤務をしても必要最低限の管理作業さえできない状態となった。遠隔地にある本島農場にあっては、他部門の協力を得て8月に4日間荒摘果を行ったほかは、無人となった5～9月の間、視察にさえ行くことができない状態となった。

施設・設備に関しては、4月に岡山農場の灌水設備が井戸水を利用したものから河川水を利用したものへの全面的な切り替えが行われ、年度末には、大温室の屋根および出入口扉の改修工事、4号園のキウイフルーツ棚の改修工事、3号園の天張りフィルムの張り替え工事、および本島農場のがけ崩れ箇所への復旧工事が行われた。このうちフィルムの更新に関しては、ブドウ園では、本年度から従来の2年間で更新が必要になるフィルムに代えて4年間展帳可能なPO系フィルムを導入することとした。

備品の整備に関しては、これまで手作業のみで多大な労力を要していたブドウの粗皮剥ぎ作業用に高

圧洗浄機を導入し、本島農場の老朽化した運搬作業車をクローラ型のものに更新した。また、前年度末に導入した剪定枝などを破碎するためのチップパーは、処理能力が高く、作業性も優れているが、大量の剪定枝や間伐樹の破碎作業には多大な時間を要した。

本年度の岡山農場における生産実績を第1表に、本島農場における生産実績を第2表に示した。なお、本島農場に関しては、前号に掲載することができなかった前年度の生産実績についても併せて掲載した。本年度の主な果樹の種類別生産概況は以下の通りである。

1) モモ

4号園では各品種とも生育はおおむね順調で、樹冠の拡大も進み、果実の生産量は生理的落果の多かった‘清水白桃’以外の3品種、すなわち‘あかつき’、‘紅清水’および‘黄金桃’では前年の生産量を上回った。特に‘黄金桃’では生理的落果や病害が例年に比べてきわめて少なく、前年度の1.7倍の生産量となった。早生品種の‘あかつき’および‘紅清水’では、収穫前半は果実の品質にばらつきがみられたが、後半は食味の優れた果実がよく揃った。‘清水白桃’では小玉が多く、また、大玉の果実では果実の先端が過熟なものがほとんどで、糖度は高いが、渋味のある果実の割合が高かった。

本年度は、病害虫や野鳥による被害は比較的小なかったが、‘清水白桃’と‘黄金桃’の一部の樹で春先に灰星病による花腐れや枝葉の枯死がみられ、数本の樹では主枝が大きく枯れ込むなどの被害が発生した。4号園では樹冠の拡大に伴い、今年も間伐や縮伐を行い、また、3月には‘紅清水’1本の補植を行った。

‘清水白桃’、‘あかつき’および‘紅清水’では、本年度も相当量の果実を贈答用の化粧箱入りで販売した。なお、1号園の‘清水白桃’（26年生）は、年間を通して実験材料として提供された。

2) ブドウ

雨よけハウスでは、コナカイガラムシによる被害

が拡大し、ほとんどの品種が影響を受けた。特に、‘藤稔’、‘ピオーネ’ および ‘ヒロハンプルグ’ では被害が大きく、大幅な減収となった。また、開花後も新梢の生育が旺盛なため、棚面が暗く、果実の着色不良や糖度不足がみられる‘藤稔’、‘ピオーネ’、‘巨峰’ および ‘ヒロハンプルグ’ の一部の樹に関しては、本年度から樹冠面積の拡大を図るために計画的に縮伐・間伐を行うこととした。

‘藤稔’は前年の7割の生産量で、果粒の大きさも例年よりも小さかった。また、新梢の誘引直前の強風により、多くの新梢が基部より折れる被害を受けた。

‘ピオーネ’の生産量は前年の7割程度であったが、本年度も糖度不足・着色不良の果実を大量に廃棄せざるを得ず、また、ほとんどの果実が多少ともコナカイガラムシの被害を受けた。

‘マスカット・ベリー A’は、省力のため本年度も有核栽培とした。生産量は前年度並みであったが、‘ピオーネ’の園に接している園の西側では、コナカイガラムシによる被害がみられるようになった。

‘ヒロハンプルグ’は、コナカイガラムシによる被害のほか摘粒過多の影響もあって、前年度に比べて大幅な減収となった。

‘デラウェア’は定植3年目に当たり、初めての果実が生産された。

3号園に2001年3月に定植した苗木(‘ピオーネ’3本、‘安芸クイーン’3本、および‘ネオ・マスカット’1本)はおおむね順調に生育した。

根域制限栽培を行っているガラス室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では、今年も地中温度制御室(0.8a)を2月加温栽培とし、7月下旬から収穫した。加温栽培した‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’の果実の品質は良く、そのほとんどを化粧箱入りで販売した。

大温室と空調室は今年も無加温で栽培したが、大温室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では、以前の結果過多の影響や苗木時代の主枝延長枝の長大化の影響で健全な結果母枝の数が少なくなっている。また、本年度は大温室で害虫の発生が多く、7月に煙霧剤による防除を行ったが、温室を

密閉する時間が長すぎたため、棚の上部では50℃以上の高温となり、落葉や新梢の先端の枯死などの著しい高温障害が発生した。

以上のような要因が重なったため、大温室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’および‘グロー・コールマン’の生産量は前年度よりも減少した。なお、比較的順調に生育した空調室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’については前年度よりも生産量が増えた。

3) リンゴ

摘果作業の適期である5月は、当農場ではブドウの新梢管理その他の作業で極めて多忙な時期に当たるため、毎年充分な摘果作業ができず、多くの樹で隔年結果が発生している。特に‘ふじ’および‘千秋’では隔年結果の傾向が著しく、大量の花を着ける年と、花がほとんど着かない年とを交互に繰り返している樹がほとんどである。このため、本年度から、作業時間に比較的余裕のある4月中旬に、着花数の多い樹について摘蕾や摘花を行い、着花数をあらかじめ1花叢1花に制限することを試みた。その結果、摘果完了時期が例年通り7月中旬になったにもかかわらず、本年度は商品価値の低い小玉の果実の割合が減少した。

各品種とも果実の生産量は前年度とあまり変化がみられなかった。‘つがる’では、隔年結果の傾向を示す樹は少なく比較的安定した生産ができているが、‘ふじ’および‘千秋’では、隔年結果の成り年に当たる樹と不成り年に当たる樹が園内にほぼ同数あるため園全体として見ると生産量の年次変動が少ないように見えるだけで、実際にはほとんどの樹が隔年結果により豊凶を繰り返している。果実の品質は、本年度も‘つがる’では安定していたが、‘ふじ’では着色の点では例年と比べて若干の改善がみられたものの、食味は相変わらず充分とは言えなかった。

当農場ではわい性台木を用いた雨よけハウス栽培を行っているが、M26台木の‘ふじ’では樹勢が強く、樹間2mでは樹の間隔が狭すぎて樹勢を落ち着かせることが困難な状態となっている。このことが隔年結果や果実の品質不良の一因となっていると考えられるため、本年度末に特に密植状態になってい

る箇所を間伐し、樹冠の拡大と通風の改善をはかることとした。

本年度もハダニによる夏季の落葉が一部の樹で認められ、また、夏季が比較的高温で推移したこともあって、害虫の発生は例年よりも多かった。

4) カキ

‘平核無’は、隔年結果の表年に当たり、生産量は前年度の2倍以上であった。このため、今年も販売所で直売可能な数量を上回る生産量となり、貯蔵中に軟化した果実を大量に廃棄することとなった。前年度に間伐を行い栽植本数を半分にした2号園の‘平核無’では、さらに樹冠の拡大をはかるため、剪定時に間伐予定樹の縮伐を行った。

‘富有’は今年も12月中旬まで樹上に残し、12月末まで販売した。

‘西条’は、全量脱渋して販売したが、渋抜き後の果実の食味は優れていた。

‘愛宕’は、渋抜きしていない生果の販売が例年になく好調で、前年度の3倍以上の量を生果のまま販売した。このため、干し柿に加工する量はいつもの年よりも少なくなったが、生産された乾果は、乾燥中の天候にも恵まれ、高品質なものとなった。

本年度は病害虫による特に目立った被害はみられなかったが、摘果が遅れた1号園の‘平核無’と‘愛宕’では、本年度も小玉の果実の割合が高くなった。

5) キウイフルーツ

1995年に定植した成木8本は樹冠面積も年々拡大し、本年度はかなりの量の果実が収穫された。1997年以降に定植したそのほかの樹の生育も本年度は順調で、園全体では300kg程度の果実が収穫できた。

収穫は10月末と11月中旬の2期に分けて行ったが、10月末に収穫したものは収穫時期が早すぎて、追熟しても食味が不良で芯のある果実が多く、ほとんどの果実が販売に適さなかった。11月中旬に収穫した果実では、追熟後の果実の品質は優れたが、貯蔵中や追熟中の点検が遅れたため、カビや軟化が追熟用の袋全体に広がるなどして、実際に販売できた果実の量は合計50kg程度に留まった。

なお、モモに改植するため、本年度末に園の東側10本の樹を伐採し、棚の面積を3/5に縮小した。その際、新梢の誘引が行いやすいように残した棚の部分の架線の数を増やした。

6) 柑橘類（本島農場）

5月～9月まで管理作業がほとんど行えなかったため、夏季の灌水不足による著しい樹勢の低下が一部の樹で認められた。この間は病害虫防除も行えなかったため、例年に比べてサビダニなどの発生が目立ち、各種類とも外観のよくない果実や小玉の果実が多くなった。

隔年結果の表年にあたる温州ミカンでは、果実の生産量は前年度よりも増えたが、伊ヨカンでは、園全体に樹勢の低下が認められ、果実の生産量は半減した。甘夏、ハッサクおよびポンカンは、ほぼ前年並みの生産量で、特に甘夏は隔年結果や樹勢の低下がほとんどみられず安定した生産が続いている。

果実の食味は、灌水量が少なかったことや施肥量が減少したこともあって、温州ミカンなどでは例年よりも優れた。セミノールは今年も野鳥による果実の食害が著しく、中晩柑類では、収穫直前の強風によって落下する果実が例年よりも多かった。

（近藤毅典・永田恵美）

第1表 平成13年度岡山農場果樹類生産量

種類	品種	面積 (a)	生産量 (kg)
モモ	清水白桃	7.9	671
	あかつき	3.8	602
	紅清水	3.7	410
	黄金桃	3.8	521
ブドウ	藤稔	8.5	1,132
	ピオーネ	8.2	642
	巨峰	4.3	584
	マスカット・ベリーA	5.8	1,461
	ヒロハンブルク	2.9	417
	アーリー・スチューベン	1.9	275
	ネオ・マスカット	1.0	222
	デラウェア	1.9	29
	安芸クイーン	1.4	0
	マスカット・オブ・アレキサンドリア	5.7	231
	グロー・コルマン	0.8	118
リンゴ	つがる	5.8	720
	千秋	2.0	89
	ふじ	9.7	697
カキ	富有	4.9	364
	松本早生富有	3.9	358
	平核無	8.1	1,446
	西条	3.9	574
	愛宕 (生果)	5.8	1,420
	愛宕 (乾果)		294
キウイフルーツ		15.0	48
ウメ		4.0	191
ビワ		5.0	309

第2表 本島農場柑橘類生産量

種類	生産量 (kg)	
	平成12年度	平成13年度
温州ミカン	3,346	5,584
甘夏	2,834	3,487
イヨカン	1,051	582
ハッサク	574	656
ポンカン	144	148
セミノール	118	144
レモン	98	194
その他	1,758	1,185

ii. 野菜・花き部

平成13年度における野菜および花きの耕種・生産の概要を第1表と第2表に示した。本年度より野菜・花き部担当技官が交替し、技官1名と技術補佐員1名の計2名で栽培管理を行った。

1) 果菜類

スイカは通常のトンネル栽培と、定植時にホットキャップをかける方法で栽培を行った。その結果、トンネル栽培の方が初期生育は良かったが、強風の影響によりトンネルがめくれるという事態が発生した。

整枝法は労力を考慮し、4本仕立てと、整枝しないものとの2通りの方法で行った。収量を上げるため、比較的株元に近い部分に結実した1番花も摘みせず収穫したが、1番花はどちらの方法も空洞化したものが多かった。品質は4本仕立ての方が良かった。

前年に定植したイチゴの生育は順調であったが、4月上旬になってダニが多く発生した。薬剤散布を集中的に行った結果、5月中旬まで収穫することができた。7月上旬にランナー受けを行い、育苗した。病害虫の発生は少なく、生育は順調で定植を10月10日に行なった。その後の生育も順調で、12月上旬から収穫を開始した。

トマトの春作では、芽かきと摘果の作業が遅れたため果実がやや小さかった。また、裂果が発生した。収穫末期にダニが発生し、品質が低下した。秋作では、初期生育は順調であったが、収穫前にオンシツコナジラミが発生し、薬剤散布に努めた結果、被害を軽減できたものの完全には駆除できなかった。ま

た、秋作では適切な時期に摘果を行ったので、果実は良好な肥大をした。

2) 葉菜類

白菜については、前年は移植栽培であったが、本年は直播栽培を行った。播種時に鳥害を防ぐためネットを張ったので、薬剤散布の時期が遅れ、第一本葉が展葉時にヨトウムシ・コナガなどの害虫の被害にあった。しかし、セル苗の補植を行った結果、生育は遅れたが株数は確保できた。生育の遅れは、その後の施肥管理と暖冬の影響によってとり戻し、順調に結球して2月下旬まで収穫することができた。

タマネギは雑草の管理が行き届かなかったため、玉の揃いが悪く収穫作業もやりにくかった。

3) 花き

栽培を行った電照ギクは‘黄金’、‘心’、‘轟’、‘金風車’、‘舞風車’、‘夢路’の6品種であった。‘轟’は芽かきが大幅に遅れたため、茎が細くなり、花も小さく、品質が劣った。‘黄金’については花芽分花が早く、電照開始時期が遅れた。そのため、草丈が伸びず早く開花し、品質は著しく劣った。他の品種においては、生育が順調で、正月用の花として、12月中旬に収穫できた。

カーネーションは、ここ数年栽培していなかったが、今年度から栽培を再開し、定植を6月28日に行った。挿し苗を用い、またガラス温室が高温であったこともあって植え傷みを生じ、苗が衰弱した。しかし、その後気温の低下とともに生育は徐々に回復し、1月上旬から収穫可能となった。

(山本 昭)

第1表 平成13年度野菜耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
トマト	レディーファースト・ミニ	汎用温室B	440.0 (㎡)	1676.3 (kg)
ナス	黒陽	南2号	2.0 (a)	681.8 (kg)
スイカ	美縞二号	南2号	9.0 (a)	2284.5 (kg)
キンウリ	金太郎	南2号	3.0 (a)	335.8 (kg)
ソラマメ	打越一寸	南1号	2.0 (a)	117.5 (kg)
イチゴ	とちおとめ	ガラス温室	181.0 (㎡)	448.2 (kg)
ハクサイ	金将2号・無双	南1号	10.0 (a)	2077.8 (kg)
コマツナ	楽天	ハウス	750.0 (㎡)	485.7 (kg)
白タマネギ	アタック	南1号	4.5 (a)	1125.5 (kg)
赤タマネギ	猩々赤	南1号	1.5 (a)	448.0 (kg)
タマネギ苗	アタック・猩々赤	南2号	2.0 (a)	6940.0 (本)

第2表 平成13年度花き耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
露地ギク	雪小路・他	南1号	6.5 (a)	6193 (本)
電照ギク	心・他	ハウス	250.0 (㎡)	1777 (本)
カーネーション	リセエンス・他	汎用温室C	60.0 (㎡)	520 (本)
スターチス	ブル・シンフォニー・他	汎用温室C	70.0 (㎡)	3282 (本)
カスミソウ	ブリストルフェアリー	汎用温室C	70.0 (㎡)	666 (本)

(4) 山地畜産部門

1) 和牛

平成13年の飼育牛移動状況を第1表に示した。子牛生産頭数は雌14頭と雄23頭の計37頭であった。本年はへい死が2頭あり、子牛は下痢による衰弱死、繁殖牛は股関節脱臼をおこし治療中に死亡した。本年の販売総数は肥育牛7頭と子牛28頭の計35頭であった。

繁殖成績を第2表に示した。人工授精で31頭、受精卵移植で1頭ずつ受胎させることができた。人工授精では昨年に比べ高い受胎率を得ることができたものの、受胎の時期が片寄る傾向は今年も改善できなかった。受精卵移植は今年も移植頭数が少なかったため、今後は移植頭数をもっと増やすように改善したい。

枝肉販売成績を第3表に示した。去勢牛の出荷は3頭で、枝肉格付はB-2が2頭でA-4が1頭であった。本年はBSEの影響で予定していた肥育牛を

出荷できなかった。これらの肥育牛は肉質を改善するために、これまでと異なる内容の飼料を給与した。その肉質などの結果が判明するのは、来年度への持ち越しとなった。

子牛の販売成績を第4表に示した。出荷頭数は去勢18頭と雌9頭の合計27頭であった。出荷日齢は前年と比較して、去勢で2日短く、雌で2日延びた。出荷体重は前年と比較して、去勢で同様の傾向となり、雌では4kg増えた。価格はBSEの影響もあったが、前年に比べ去勢において2万円の安値となり、雌において2万円の高値となった。本年もコクシジウムによる下痢が発生し、牛床の消毒や抗原中剤の投与などを行うと共に生菌剤の投与も行った。今後とも下痢の予防と早期発見・治療に努め、月齢に応じた飼育技術を確立したい。

(野久保 隆)

第1表 平成13年飼育移動状況(13.1.1~14.3.31)

		雌				雄			合計
		子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛	
13.01.01	現在	11	1	36	3	13	3	2	69
期間 移動	増	生産	6	-	-	9	-	-	15
		振替	-	1	1	2	-	3	7
	移	振替	1	1	2	-	3	-	7
	動	減	へい死	-	-	-	-	-	0
		売却	6	-	-	3	4	2	15
13.07.01	現在	10	1	35	2	18	0	4	69
期間 移動	増	生産	5	-	-	12	-	-	17
		振替	-	3	1	3	-	4	11
	移	替振	3	1	3	-	4	-	11
	動	減	へい死	1	-	-	-	-	1
		売却	3	-	-	1	8	1	13
14.01.01	現在	8	3	33	4	18	4	2	72
期間 移動	増	生産	3	-	-	2	-	-	5
		振替	-	-	-	-	-	2	2
	移	振替	-	-	-	-	2	-	2
	動	減	へい死	-	1	-	-	-	1
		売却	1	-	-	-	-	-	7
14.03.31	現在	10	3	32	4	14	2	4	69

第2表 平成13年人工授精・受精卵移植成績(13.1.1～14.12.31)

実施 頭数	受胎 頭数	受胎率 (%)	授 精 回 数								
			1		2		3		4以上		
			受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	
人工授精	35	31	88.6	25	2	6	1	—	1	—	—
受精卵移植	3	1	33.3	—	2	1	—	—	—	—	—

第3表 平成13年枝肉販売成績

と 殺 年月日	耳 標 番号	性 別	水引枝 肉重量 (kg)	枝肉 規格	枝 肉 単 価 (円/kg)	売 上 金 額 (円)
13.01.11	Y205	雌	387.0	B-2	950	381,469
	W129	去	418.2	B-2	1,050	458,110
13.04.11	Y139	雌	373.6	B-2	450	173,535
	W130	去	426.6	A-4	1,650	723,190
13.06.13	Y148	雌	395.5	B-1	460	188,418
13.11.15	Y189	雌	378.1	B-2	380	149,283
	W131	去	403.4	B-2	1,094	460,483

第4表 平成13年子牛販売成績

販 売 年月日	耳標 番号	生年月日	性 別	生後 日 齢 (日)	体 重 (kg)	日 齢 体 重 (Kg/日)	落札 価 格 (千円)	kg当 単 価 (円/kg)	母牛 番 号	父牛 名 号
13.02.14	R729	12.04.16	雌	304	248	0.82	234	944	Y206	岡糸晴
	R730	12.05.25	雌	265	236	0.89	256	1,085	Y200	利花
13.03.14	R731	12.06.05	雌	282	249	0.88	253	1,016	Y192	第2富藤
	R733	12.06.07	去	280	249	0.89	355	1,426	Y195	沢幸土井
	R734	12.06.10	去	277	262	0.95	271	1,034	Y198	沢幸土井
	R735	12.06.14	去	273	266	0.97	274	1,030	Y150	第2富藤
13.05.25	R736	12.07.20	雌	309	265	0.97	247	932	Y203	沢幸土井
	R738	12.08.09	去	289	292	1.01	412	1,411	Y207	利花
	R741	12.08.24	雌	274	243	0.89	219	901	Y168	第2富藤
13.07.13	R744	12.09.24	雌	292	269	0.92	245	911	Y199	藤姫丸
	R746	12.10.08	去	278	277	1.00	254	917	Y173	藤姫丸
	R747	12.10.11	去	275	247	1.90	324	1,312	Y208	沢幸土井
	R748	12.10.15	去	271	279	1.03	277	993	Y167	第7糸平藤
	R751	12.11.12	去	243	293	1.21	269	918	Y204	藤姫丸
	R752	12.11.13	去	242	273	1.13	272	993	Y179	藤姫丸
13.11.22	R753	13.01.22	雌	304	287	0.94	192	669	Y162	藤姫丸
	R754	13.02.13	去	282	254	0.90	276	1,087	Y209	沢幸土井
	R755	13.02.22	雌	273	251	0.92	213	849	Y100	藤姫丸
	R756	13.03.11	去	256	263	1.03	256	973	Y160	第7糸平藤
13.12.21	R758	13.03.27	去	269	258	0.96	180	698	Y206	藤姫丸
14.01.23	R757	13.03.21	雌	308	256	0.83	202	789	Y202	藤姫丸
	R759	13.04.05	去	293	263	0.90	235	894	Y180	利花
	R765	13.05.02	去	247	277	1.12	210	758	Y210	藤姫丸
14.02.15	R761	13.05.03	去	288	269	0.93	272	1,011	Y192	藤姫丸
	R763	13.05.16	去	275	262	0.95	211	805	Y193	沢幸土井
14.03.15	R764	13.05.19	去	300	267	0.89	219	820	Y150	藤姫丸
	R766	13.05.21	去	298	296	0.99	321	1,084	Y198	沢幸土井
平 均			全頭	27	280	265	0.95	257	972	
			去勢	18	274	269	0.98	272	1,008	
			雌	9	290	256	0.80	229	895	

2) 飼料作物

平成13年度における飼料作物の生産状況を第5表に示した。

採草地における飼料作物の青草換算による収量は368,755kgで、10a当たり平均収量は7,435kgであった。採草地と放牧草地との収量を合わせた総収量は533,475kgとなった。

利用形態別による収量割合を第6表に示した。葉刈りで27.8%、乾草で6.5%、サイレージで34.9%、放牧で30.9%となった。

乾草調製用の材料草としてE、K3号草地からイタリアンライグラス、スーダングラス、K1、K2号草地からイタリアンライグラスを収穫した。本年の乾草収量は平成12年に比べ、約3,400kgの減収となった。これはイタリアンライグラスの播種後の生育が悪く、また春先にナズナなどの雑草が採草地一面に繁殖した結果、養分の競合を引き起こし収量の低下を招いたものと考えられる。スーダングラスについては例年並の収量となった。

サイレージ調製用の材料草として、A号草地からエンバクとトウモロコシ、K1号草地からトウモロコシ、K2号草地からソルゴーを、D号草地からトウモロコシとソルゴーを収穫した。生草換算収量で

は平成12年度より約5,000キログラムの減収となった。K1号草地では昨年に続き播種後の降雨により初期生育に影響を受け、その後の生育も悪く他の採草地と比べかなりの減収となった。A号草地では播種時期が7月と遅くなり、十分な草丈に生育する前に出穂した。しかし、毎年排水不良による影響を受けていた場所の生育が例年より良好だった結果、昨年並みの収量を得られた。D号草地はトウモロコシとソルゴーの混播を行った。本年は良好な生育となり、昨年のトウモロコシ収量と比べ約30,000kgの増収となった。また、トウモロコシを作付けした草地ではイノシシによる食害が見られた。昨年より電気牧柵を導入したことにより、以前より被害は減少しているものの、K1号草地では本年も収穫間際に食害が増えた。今後、イノシシに対し忌避作用のある他の方法なども検討する必要がある。

放牧草地ではオナモミ、イチビ、ワルナスビ、イグサ、セイタカアワダチソウなどの雑草がみられ、毎年学生実習等で除草作業を行っている。オナモミ、イチビについては除草の効果がみられてきたが、ワルナスビ、イグサについては年々増殖しており、即急の対策が必要となっている。

(川畑昭洋)

第5表 平成13年 津高牧場飼料作物生産量

草地	面積 (a)	作物	利用形態別収量(kg)					草地当り収量(kg)	
			青刈	乾草	サイレージ	放牧 放牧 延頭数	生草換算 収量(kg)	生草合計 収量	10a当り 平均収量
A	100	エンバク	8,300		6,530		27,890	69,370	6,937
		トウモロコシ	8,540		16,470		41,480		
D2	130	トウモロコシ+ソルゴー-混播	11,380		50,040		86,440	155,680	11,975
		ソルゴー	34,620				69,240		
E	76	イタリアンライグラス	4,810	1,730			13,460	36,730	4,833
		スーダングラス	15,620	1,530			23,270		
K1	90	イタリアンライグラス	2,210	1,040			7,410	32,580	3,620
		トウモロコシ	3,550		10,810		25,170		
K2	60	イタリアンライグラス	9,880				9,880	55,190	9,198
		ソルゴー	8,390		18,460		45,310		
K3	40	イタリアンライグラス		980			4,900	19,205	4,801
		スーダングラス	6,130	1,635			14,305		
小計	496		148,050	6,915	102,310		368,755	368,755	7,435
B	65	混播牧草				12,680	317	12,680	1,951
C	20	混播牧草				33,440	836	33,440	2,787
D1	20	混播牧草				960	24	960	480
F	104	混播牧草				29,440	736	29,440	2,831
G	112	混播牧草				23,360	584	23,360	2,086
H	47	混播牧草				11,680	292	11,680	2,485
I	185	混播牧草				53,160	1,329	53,160	2,874
小計	653					164,720	4,118	164,720	2,523
合計	1,149		148,050	6,915	102,310	164,720	4,118	533,475	4,643

第6表 利用形態別における生草換算収量

青刈	乾草	サイレージ	放牧	合計
148,050	34,575	186,130	164,720	533,475

* サイレージの生草換算はトウモロコシ+ソルゴー×1.5
トウモロコシ、ソルゴー×2 エンバク×3

* D2 青刈りソルゴー×2

* 乾草の生草換算は×5

(5) 技官研修

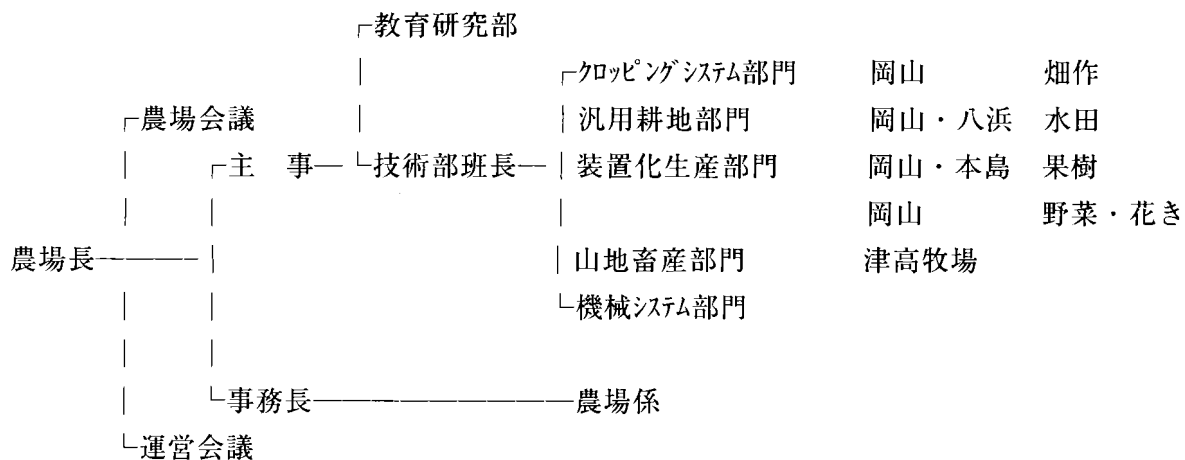
事 項	研 修 内 容	月 日
1. 農場協議会	1. 平成13年度中国・四国地域大学附属農場協議会 当番校・島根大学 酒井技官	8月9－10日
2. 講演	1. 農学部特別講演「米の品質向上のための 栽培環境と技術対策」 福岡県農業総合試験場農産研究所栽培部 松江勇次 部長	12月12日
	2. 特別講演「カリフォルニアにおける果実生産」 岡山大学農学部 久保田尚浩 教授 「ニュージーランドにおける草地農業」 岡山大学農学部 岸田 芳朗 助手	3月5日
	3. 特別講演「米の多様性－赤米・紫黒米の持つ魅力」 広島県立大学生物資源学部 猪谷富雄 助教授	3月13日
3. 見学	1. 装置化生産部門（果樹部） 岡山県農業総合センター農業試験場 近藤技官，永田技官 岡山市農業協同組合一宮中央選果場 近藤技官，永田技官	7月11日 7月31日
	2. 装置化生産部門（野菜・花き部） 栃木農業試験場 山本技官	3月7日－8日
	3. クロッピングシステム部門 岡山市農協青果物生産組合牟佐黄ニラ 選果場および生産農家 山奥技官 鳥取大学農学部附属農場 酒井技官 香川大学農学部附属農場 愛媛大学農学部附属農場 山奥技官	11月12日 2月15日 2月28日 3月1日
	4. 山地畜産部門 宮崎大学農学部附属農場 川畑技官	2月28日－3月1日
	5. 日進ゴム株式会社	12月10日
4. 技能研修	1. 危険物取扱者試験（講習） 免許取得：川畑技官	9月27日（講習） 10月28日（試験）
	2. 危険物取扱者の保安講習	

	多田技官	9月21日
	山奥技官, 野久保技官	10月25日
3. 災害・防災に関する講習会		1月16日
	山本技官, 川畑技官, 永田技官, 野久保技官	
4. 実践パソコン術		3月6日
	岡山大学農学部 黒田俊郎 教授	
	山奥技官	
5. 研究報告会	1. 技術部研究発表・討論会	3月13日

事務部

(1) 組織

(1) 機 構



(2) 教職員数

區 分	教育職(一)	行政職(一)	計	非常勤職員	合計	備考
		技官	事務官			
農 場 長	1			1	1	併 任
主 事	1			1	1	助教授
助 手	1			1	1	
班 長		1		1	1	
主 任		3		3	3	
技 術 官		4		4	4	
事 務 長			1	1	1	併 任
係 長			1	1	1	
主 任			1	1	1	
計	3	8	3	14	14	
事務補佐員				2	2	
技能補佐員				4	4	
技術補佐員				3	3	
臨時用務員				1	1	
合 計	3	8	3	14	24	

(3) 技術部部門別職員数

部 門	技 官	非常勤職員	合 計	備 考
クローピングシステム	2	1	3	
汎用耕地	1	1	2	
装置化生産				
果樹	2	3	5	
蔬菜・花卉	1	1	2	
山地畜産	2	1	3	
合 計	8	7	15	

(2) 予算及び収入

(1) 予 算 (振替, 事項指定等特殊な予算は除く)

平成12年度		平成13年度	
事項	金 額(円)	事 項	金 額(円)
農場経費	49,893,000	農場経費	46,041,000
(内 訳) 作付積算分	(20,227,000)	(内 訳) 作付積算分	(19,301,000)
収入見込分	(29,666,000)	収入見込分	(26,740,000)
自動車維持費	242,000	自動車維持費	252,000
清掃費	301,000	清掃費	311,000
警備委託費	652,000	警備委託費	671,000
污水处理施設運営費	337,000	污水处理施設運営費	335,000
消防設備費	39,000	消防設備費	52,000
普通庁費	165,000	普通庁費	161,000
合 計	51,629,000	合 計	47,823,000

(2) 収 入

平成12年度					(円)
区 分	クローピングシステム	汎用耕地	装置化生産	山地畜産	合 計
麦・いも類	831,030				831,030
果 菜 類	899,720		2,207,590		3,107,310
葉 菜 類	1,792,290		682,935		2,475,225
根 菜 類	1,601,090				1,601,090
花 卉 類	98,000		1,200,470		1,298,470
果 樹			8,109,290		8,109,290
米		7,381,147			7,381,147
牛				9,792,085	9,792,085
合 計	5,222,130	7,381,147	12,200,285	9,792,085	34,595,647

平成13年度		(円)			
区 分	クローピングシステム	汎用耕地	装置化生産	山地畜産	合 計
麦・いも類	873,270				873,270
果 菜 類	730,670		2,072,120		2,802,790
葉 菜 類	1,562,810		627,350		2,190,160
根 菜 類	1,320,710				1,320,710
花 卉 類	67,000		1,241,860		1,308,860
果 樹			7,351,750		7,351,750
米		8,929,644			8,929,644
牛				7,076,416	7,076,416
合 計	4,554,460	8,929,644	11,293,080	7,076,416	31,853,600

(3) 土地及び建物

1) 土 地

農場等名	面 積 (㎡)	所在地
岡山農場	91,992	岡山市津島桑の木町1-62
八浜農場	89,568	玉野市八浜町大崎1771
本島農場	22,452	香川県丸亀市本島町泊
津高牧場	312,484	岡山市日応寺
合 計	516,496	

(4) 営繕工事

(1件50万円以上)

平成12年度			
工 事 名	数量 (式)	金 額 (円)	
岡山農場温室天窓用開閉設備改修工事	1	892,500	
岡山農場堆肥置場上屋増設工事	1	997,500	
岡山農場ビニールハウス棟被覆工事	1	850,000	
半田山教育研究林林道アスファルト補修工事	1	828,450	
半田山教育研究林林道フェンス取設外工事	1	834,750	

平成13年度			
工 事 名	数量 (式)	金 額 (円)	
岡山農場装置化生産施設大温室屋根外改修	1	4,200,000	
岡山農場水田用現水路補強外工事	1	993,300	
岡山農場ビニールハウス張替工事	1	567,000	
津高牧場合併処理浄化槽取設工事	1	7,000,000	
本島農場果樹園法面擁壁取設工事	1	1,470,000	

(5) 会議開催状況

1) 農場会議

開催月日	協議事項	報告事項
13. 2.28	1. 平成13年度附属農場兼担教官について承認 2. 平成13年度附属農場専任教員の講座への併任について承認 3. 農場会議委員の選出について 委員の決定後、庶務係への届出を要請	1. 平成13年度農場実習について 2. 技官の人事異動について 3. 増収対策について 4. 平成13年度大学等地域開放特別事業について 5. 概算要求について
5.31	1. 農場の作付について 農場経費の配分、近年の収入状況等について説明	1. 技官体制について 2. 平成13年度全国大学附属農場協議会全国協議会について 3. 平成13年度大学等地域開放特別事業について 4. 学生アルバイトの雇用について
14. 3. 7	1. 平成14年度附属山陽圏フィールド科学センター併任教員について承認 2. 平成14年度附属山陽圏フィールド科学センター専任教員の講座への併任について承認 3. 附属山陽圏フィールド科学センター利用内規等について 問題点を検討したうえで決定する。 4. センターの委員会等について承認	1. 平成14年度農場実習について 2. 大学等地域開放特別事業について

2) 運営会議

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
13.1.24	1. 平成13年度作付計画について承認 2. 農場報告について 投稿要領を承認	1. 技官研修について 2. 附属農場利用申込状況について 3. 文部科学省会計実地監査について 4. 農場の改組について
2.8	1. 平成13年度兼任教官について 確認調整のうえ決定 2. 平成13年度附属農場専任教官の講座への 併任について 承認 3. 平成13年度全国大学附属農場協議会春季 全国協議会の議題について 農場の状況及び方向性について検討 4. 平成13年度大学等地域開放特別事業につ いて ワーキンググループで引続き検討	1. 技官研修について 2. 技術部会議について 3. 附属農場利用申込状況につ いて 4. 文部科学省会計実地監査に ついて 5. 松田技官の後任について 6. 農場概要, 農場報告につい て 7. 販売日について 8. 農場の改組について
3.7	1. 平成12年度追加予算の配分について 承認 2. 平成13年度大学等地域開放特別事業につ いて 事業計画書について説明, 承認 3. 平成13年度運営会議委員について 機械システム部門が変更予定	1. 農場会議について 2. 平成13年度農場実習につい て 3. 技官の異動について 4. 技術部会議について 5. 農場報告第23号の発刊につ いて 6. 圃場散水設備について 7. 米の直売について
4.19	1. 平成13年度全国大学附属農場協議会 春季全国協議会の開催について 農場長, 主事の出席について承認	1. 農場実習 I, 牧場実習につ いて 2. 技術部の体制について 3. 附属農場利用申込状況につ いて 4. 技術部会議について 5. 散水設備について 6. 建物改修について 7. 液晶プロジェクターの購入 について 8. 作物の販売について
5.9	1. 平成13年度中国・四国地域大学附属	1. 技官の転入について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
	<p>農場協議会の開催について 主事、酒井技官、農場係長の出席について 承認</p> <p>2. 平成13年度一般修繕の要求について 承認</p> <p>3. 岡山大学教育学部附属養護学校職場 体験学習について 承認</p>	<p>2. 附属農場利用申込状況につ いて</p> <p>3. 技術部会議について</p> <p>4. 附属農場の視察・見学の報 告について</p> <p>5. 牧場実習について</p> <p>6. 農場会議の開催について</p> <p>7. 校舎の改修について</p>
6. 6	<p>1. 平成13年度大学等地域開放特別事業「伝 統農産加工（ほしがき・おかざりをつく る）」について 事業計画書が認められ、予算配分が確定 (35万円)</p> <p>2. 附属農場各種利用手続きの周知方につ いて 農学部教職員ホームページに掲載するため 調整、検討のうえ実施</p> <p>3. 農学部校舎改修に伴う実習室及び講義室 の借用について 実習に支障がないか確認のうえ判断</p>	<p>1. 農場会議について</p> <p>2. 平成13年度全国大学附属農 場協議会春季全国協議会につ いて</p> <p>3. 附属農場利用申込状況につ いて</p> <p>4. 技術部会議について</p> <p>5. 農場改組について</p>
7. 4	<p>1. 平成12年度農場経費及び農場収入の決算 について 承認</p> <p>2. 平成13年度臨時経費の要求について 承認</p> <p>3. 総合演習の開講について 教務委員会の検討状況と合わせて対応</p> <p>4. 交通安全に関する提案について 研究に支障のない範囲での制限を考慮</p>	<p>1. 作物集中実習及び牧場実習 について</p> <p>2. 非常勤職員（本島農場）に ついて</p> <p>3. 平成13年度大学等地域開放 特別事業「ほしがき・おかざ りをつくる」について</p> <p>4. 米の販売について</p> <p>5. 附属農場利用申込状況につ いて</p> <p>6. 技術部会議について</p> <p>7. バスの保管について</p> <p>8. 農学部校舎の改修について</p>
9.12	<p>1. 平成13年度農場経費の予算配分について 承認</p>	<p>1. 農場の改組について</p> <p>2. 平成13年度中国・四国地域 大学附属農場協議会について</p> <p>3. 作物集中実習及び牧場実習 について</p>

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
10. 3		4. 米の販売について 5. 附属農場利用申込状況について 6. 非常勤職員の採用について 7. 技術部の報告について 1. 平成13年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会並びに教育研究集会について 2. 牧場実習について 3. 農場実習Ⅱについて 4. 大学等地域開放特別事業「ほしがき・おかざりをつくる」について 5. 附属農場利用申込状況について 6. 技術部会議について 7. 非常勤職員の採用について 8. 部内会計実地監査の実施について
11.7	1. 平成14年度作付計画について 計画の立案について取組むよう要請	9. 学長用自動車の保管について 1. 平成14年度教育学部附属養護学校体験学習及び総合演習について 2. 米の販売について 3. 平成13年度大学等地域開放特別事業について 4. 技術部会議について 5. 部内会計実地監査について 6. 農場報告の発刊について
12. 5	1. 農場報告及び農場概要について発行を承認 2. 平成14年度大学等地域開放特別事業について 事業計画をワーキンググループで検討	1. 技術部研修について 2. 技術部会議について 3. 年末年始の清掃作業について 4. 附属農場利用申込状況について 5. 大学等地域開放特別事業「ほしがき・おかざりをつくる」について 6. 米の販売について 7. 販売日について 8. 営繕工事について

開催月日	協 議 事 項	報 告 事 項
14. 1.23	1. 平成14年度作付計画について承認 2. 平成14年度全国大学附属農場協議会 春季全国協議会の議題について 大型機械の更新要求について提案	1. 大学等地域開放特別事業について 2. 技術部会議について 3. 附属農場利用申込状況について 4. 農場改組（山陽圏フィールド科学センター）に伴う兼担教官について
2. 6	1. 附属農場の職員体制について 非常勤職員体制について今後の検討課題とされた。	1. 附属山陽圏フィールド科学センター利用内規等について 2. 技術部研修について 3. 技術部会議について 4. 大学等地域開放事業ワーキンググループ及び米直販ワーキンググループの検討結果について 5. 農学部建物改修に伴う、農場実習室等の使用について
3. 6	1. 平成13年度農場経費等の追加配分について承認 2. 平成14年度大学等地域開放特別事業について 「モチ米づくり」の実施を決定 3. 山陽圏フィールド科学センター改組に伴う教官室及び建物改修に伴う農場の建物使用について承認 4. 津高牧場の環境対策について 対応等の強化を了承 5. センター内規及び委員会について 新スタッフのもとで検討 6. 情報ネットワークの利用について 津高牧場及び八浜農場のネットワーク強化を検討	1. 平成14年度農場実習について 2. 農場会議の開催について 3. 技術部研修について 4. 技術部会議について 5. 営繕工事について

(6) 施設開放状況

施設利用目的, 時期	施設利用者名項	期 間	団 体 数 等	参加人数
いもほり (10月2日～11月1日)	保育園	1 日	34団体 (4,731株)	3,398
	幼稚園		10 (1,150株)	689
	小学校		8 (2,026株)	1,043
	親子クラブ		2 (418株)	303
			14 (1,137株)	1,363
教育実習 (10月3日～10月5日)	岡山大学教育学部	3 日	1	9
	附属養護学校			(延27名)
ほしがき・おかざりづく り (11月18日, 12月8日, 12月22日)	一般市民	3 日	19家族	49
				幼稚園児 2
				小学生 24
				中学生 2
				保護者 21
				(延147名)